

## 《教育長メッセージ 第44号》

### 『勝つこと負けること』

毎年7月から8月にかけて、中学校の部活動の大会やコンクールが開催されます。

今年は、特に、運動部活動の県大会が県央地区で開催され、運動公園の体育館、陸上競技場で熱戦が繰り広げられました。

結果として、県大会、関東大会を経て、有馬中学校のソフトテニス、海西中学校の柔道、大谷中学校のバドミントンの子どもが全国大会に出場しました。

その努力と快挙を心から称賛します。



さて、私は、この職に就く前の3年間、有馬中学校の職員として生徒たちの部活動の応援に奔走しました。教育委員会で、事務仕事を長い間行っていたことから、この3年間は、毎年、真っ黒に日焼けする自分を心地よく感じていました。

多くの場合、大会やコンクールのある部活動を行っている子どもたちは、3年生の夏の大会を最終目的として、2年数カ月、日々の練習に取り組みます。最後の夏の大会で、県央大会に出場すること、県大会に出場すること、関東大会に出場すること、全国大会に出場することを目指しているのです。

学校で、日々、子どもたちの努力を目のあたりにしていると、自分の目の前の子どもたち全員に、勝ってほしい、優勝してほしいと、素直に思うのです。もちろん、私は大人ですから、「勝つこと」と「負けること」は2分の1で、市の大会の1回戦で、半部分が「負けること」は、承知しているのですが、そう思うのです。

だから、勝ってほしいと応援するのです。

でも、負けるのです。いつか負けるのです。

子どもたちは「負けること」を噛みしめるのです。

泣き崩れる子、ぐっと悔しさをこらえる子、仲間を励ます子、悲しみの裏返しで照れる子、目を真っ赤にして最後まで礼儀正しくあいさつをする子……。試合の結果として、「負けること」のいくつものドラマがそこにあるのです。

「勝つこと」には、大きな称賛を与えるべきではありますが、「負けるこ

と」にも、同様に、大きな拍手を送るべきだと私は思っています。特に、子どもたちにとっては、「負けること」の大切な価値を、自分のこれからは、将来に生かせるようにと願うのです。

だから、

何があっても、がんばれ！子どもたちなのです。

その時々の結果にめげずに、がんばれ！子どもたちなのです。

また、たとえ3年生でも、全員が大会に出場できるわけではありません。部員が多い場合は、2年数カ月、日々、ともに練習を重ねてきても、最後の大会に応援というかたちで参加せざるを得ない子どもたちがいます。

私は、そんな子どもたちの応援する姿を、応援していました。精一杯の応援の声が、これからの、将来の、その子の生きる糧になると確信して、応援していたのです。

中学生の大会は、ほとんどが観戦自由です。みなさんには、ぜひ、一度、子どもたちの試合を見ていただければと思うのです。

プライスレスの感動をお約束します。

今回は、「英語教育」について、これからの海老名市の取組を含めて、私の考えを述べてみたいと思います。